

令和7年度 学校経営報告

八王子市立陶鎔小学校
校長 中野 智彦

総評

(1) 今年度の学校の状況

- ①生活指導の困難な児童が少なくない中、全ての教職員が互いに励まし合いながらこの現実から正面から取り組んだ。この結果、三学期に病気休暇取得者を一名出したものの、教職員が一致団結し、予定の教育活動を全て実施できた。学校経営計画において、学校教育活動の成果をあげるためには『人の和をはかる』ことが大切であると述べたが、これこそが学校経営の要諦であることを実証する形となった。
- ②研究面では「児童が主体的に学びに向かうための望ましい支援の在り方」をテーマにして、配慮や支援を要する児童への対応力向上をもねらって取り組んだ。この結果、「支持的学級風土」を醸成する力、児童の問題行動への対応力が向上及び生活指導事案への迅速で妥当な対応及びいじめ事案の減少につながった。基礎的・基本的な学力に関する詳細は下記(2)-[1]を参照されたい。
- ③若手教員育成や体育・英語指導力及びICT活用力向上のための校内OJTが9回行われ、本校全体として学習指導力・生活指導力が向上した。
- ④生活指導については、『規律と思いやり』を主眼に置き、「陶鎔小スタイル」に沿って指導を繰り返した。さらに、指導の困難な児童が在籍する学級については、複数の大人で見守る体制を構築し、適正な学習環境の維持・向上を図るように努めた。
- ⑤前年度からの「別室登校支援員」制度については、当該支援員のきめ細やかな児童対応により、不登校傾向児童の別室登校促進につながるなど大変有効な施策であった。令和8年度においては、都の同事業（予算措置）は停止になるが、開催頻度を再考しつつ同主旨の施策を継続実施するように努める。
- ⑥家庭及び地域は協力的で、とりわけ学運協・PTA・おやじの会が本校を強かに支援してくださっている。特筆される取組としては、年2回実施の学運教委員と教員との懇談会や、学運協委員による定期的な校内見回り・授業観察、ネットやゲームマナー向上に関する講習会が挙げられる。生活指導事案やいじめ事案への迅速な対応や妥当な解決にも大きく寄与するものとなっている。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要

[1]確かな学力の育成

本校ではここ6年来、算数の学習指導に重点を置き、低学年算数ではTTを、3～6学年では算数は習熟度別少人数指導に取り組んできた。

しかしながら、全国学力調査から「数と計算」・「図形」・「変化と関係」・「データの活用」の各領域において、令和6年度と比して正解率が7%～13%低下していることが判明した。対応策として、授業中における繰り返し学習の高頻度化及び定期的な朝学習等を実施してきた。さらに、3・6学年では音楽・図工・家庭科以外で学年教員による教科担任制を実施し、当該教科における学習指導の充実を図ることができた。

[2]心と体の健康づくり

- ①体力テストを6月に実施した結果、本校児童は握力や長座体前屈は優れているが、立ち幅跳びや50m走に課題があることが判明した。通常の体育の授業において短距離走や跳躍の繰り返し学習を行うなど、改善を図るようにする。
- ②定期的かつ適時に校内いじめ対策委員会を行うなど、組織的で迅速な対応・解決を図った。その結果、新規に「いじめ認知報告書」を市教委に提出する事案は今年度も皆無であった。次年度以降も未然防止・早期発見・早期対応・早期解決を図る。

[3]保護者・地域との連携

- ①学校運営協議会の毎月開催により、教育活動や学校施設・設備等の課題に関する緻密な協議を行うことができた。これらにより、生活指導事案や保護者対応事案への迅速な解決や、学校施設・設備への必要な対応・修繕等につながった。
- ②おやじの会が中心となり、運動会への支援と児童・保護者向け行事を計7回実施した。これらの中には、スマホやネットゲームなどの利用マナー向上に関するものが含まれている。これは新たなセイフティ教室として来年度以降も実施する。
- ③児童発達支援施設等による「保育所等訪問支援」については、学運協会長が立会いのもと、本校の児童支援に係る複数の当該施設が年に4回統一的に集まり、当該児童への指導や支援の共通理解に資する協議を行うことができた。当該施設が個々に来校することによる混乱を避けることができた。

(3) 次年度に向けた課題及び解決の方向性

[1]確かな学力の育成

- ①引き続き『支持的学級風土を基盤とした学級力向上』を中軸に据え、安心して発言・発表・表現ができる学級集団づくりを通して学力の向上を図る。
- ②今後も家庭と連携を図りながら基礎的学力の定着に努めるとともに、低学年算数ではTT（時間講師）の実施、3～6学年算数は習熟度別少人数指導、及び専科以外での教科担任制を一層推進するなど、より丁寧で専門性の高い指導を行う。
- ③小中一貫教育研究については、教科・領域別に小中共通の実践事項について成果を明らかにした。例えば国語では、漢字力や作文力の向上が見られ、都立高校入試に向けての確かな基礎的学力の向上が見られた。今後も実践事例の蓄積を行う。

[2]心と体の健康づくり

- ①道徳教育の充実をはじめ、全ての教育活動を通して、思いやりのある子の育成と思いやりのある言語環境づくりに努める。SC及びSSWの活用により不登校児童数の減少を図る。悩みを抱える児童・保護者がSCに相談しやすい環境を提供する。
- ②持久走週間・鉄棒週間・縄跳び週間等の実施で体力向上に努めたが、体力テストでは立ち幅跳びや50m走に課題が残った。体育の授業における当該事項の繰り返し学習改善を図るなど、体力向上に資する機会を設定したり外遊びを奨励したりする。
- ③指導の困難な児童が在籍する学級については、適正な学習環境の維持・向上を図る観点から、複数の大人で見守る体制を継続するとともに、当該児童・家庭を対象とした関係者（ケース）会議の実施を検討していく。

[3]特別支援教育の推進

- ①のぞみ学級と各学年との交流学习をもち、通常級の児童への理解学習を推進する。また、八王子西特別支援学校の児童との副籍交流を継続実施する。
- ②都巡回心理士を活用する形で、保護者面談・WISCの実施や医療との連携を図り、当該児童を特別支援教室や特別支援学級に円滑につなぐことができたほか、教員の当該児童への関わり方の改善にもつながった。次年度もこの形を継続していく。

[4]保護者や地域との連携

- ①学運協と学校運営上の重要施策（学校経営方針、地域との調整が必要な施策、生活指導や保護者対応の困難事案等）を協議するとともに、協働して対処していく。
- ②放課後子ども教室（毎日開催）の雨天時校舎内開催を昨年度から開始、来年度も継続実施するほか、登校時刻前の開催に向けた具体的な検討を引き続き行う。この他、サタコミ（各種スポーツや和太鼓、英会話）、地域資源と連携した「あそびじゅつかん」等を年8回開催、来年度も継続実施する。
- ③保幼小連携を強固に推進し、園児と本校児童との交流活動や当該施設職員と本校職員との交流も年に複数回実施するとともに、「かけはしカリキュラム試案」の改良・充実を図り、保幼から小学校への滑らかな接続に一層資するようにする。

(4) 学校経営報告（総括表）

	数値項目の目標	令和7年度の現状	令和8年度の目標
地域運営学校	<ul style="list-style-type: none"> 保護者理解度 委員の協議会及び学校行事等への参加 提案事項や施策 	<ul style="list-style-type: none"> 95% 90% 危険樹木の伐採等学校安全関連の施策の実施 講演会、懇談会等の活動2回以上 	<ul style="list-style-type: none"> 100% 95% 同左
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 授業時数 複数教員による指導及び教科担任制の推進 到達目標値の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 余剰時数 18 時間以内（全学年） 低学年も算数で TT の実施、専科教員以外での教科担任制の推進 到達目標問題正答率 50%未満児童 10%以内 	<ul style="list-style-type: none"> 余剰時数 18 時間以内（全学年） 同左の一層の推進 到達目標問題正答率 50%未満児童 7%以内
安全健康	<ul style="list-style-type: none"> 不登校 いじめ 安全教育 	<ul style="list-style-type: none"> 年間 90 日以上欠席 13 名。 認知報告書提出案件 0 件を目指す（いじめの未然防止等の対応が主眼） 交通事故等 0 件 	<ul style="list-style-type: none"> 同左 10 名以内 同左 同左
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校・学年だより 学校評価 小中一貫教育及び保幼小連携の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 月 1 回以上の発行 A・B 評価全項目平均 70% 年 3 回の分科会、授業体験、及び交流動放課後デイとの連携の継続 	<ul style="list-style-type: none"> 同左 A・B 評価全項目平均 80% 同左
特色ある活動	<ul style="list-style-type: none"> 食農育の推進 老人ホームとの交流等の地域教育力の導入 インターナショナル・ボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養士と全学年が連携、年 1 回以上 相互訪問を検討（竹の里・小松原園）川口川環境学習 7 名以上 	<ul style="list-style-type: none"> 同左 同左 同左
家庭地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会 授業参観 サタコミ・おやじの会、犬目町会との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 出席率 50%以上 参加率 80%以上 教員の参加者のべ 30 名程度、町会との連携では保護者参加者 50 名以上 	<ul style="list-style-type: none"> 出席率 60%以上 参加率 85%以上 同左